中部横断自動車道八ヶ岳南麓
新ルート沿線住民の会ニュース
No.7　２０１３年９月２１日発行

巻頭寄稿文

足るを知る

２０２０年オリンピック・パラリンピックの開催が東京に決まりました。ふと小さなバッジを思い出し、引き出しから出したそれは、東京都のかつてのキャラクター「河童」が、上から日の丸と五輪のマーク、そして「TOKYO」の文字のあるポスターに寄り添うように立っています。

前回のオリンピックは高校生の時で、学校がメイン会場の国立競技場の近くにあったため、湧き上がる歓声が教室の窓から時々入ってきたように思います。今思えば戦後の復興を祝う歓声だったのでしょうか。

１９６０年代、「豊かな未来」「バラ色の未来」が信じられていた時代のイラストレーター真鍋博氏の絵には、今ではごく普通の風景である家々の屋根にパラボラアンテナが描かれ、また人々は耳に携帯電話を当てています。

１９６８年に封切りされた映画「２００１年宇宙の旅」の中で、手のひらサイズの動画カメラで会議を撮影するシーンがあります。

人間は夢に描いたものの多くを実現してきました。

旧ソ連映画「惑星ソラリス」（1972 年）では、東京の首都高速道路、白金付近が未来都市のイメージで撮影されています。

２０２０年のオリンピックは「成熟した都市・東京」で開かれますが、かつて戦後の復興の証とした高速道路、鉄道、上下水道等々のインフラは、半世紀を経て今悲鳴をあげています。コンクリートを始めとする構造物の寿命は永遠ではなかったのです。「惑星ソラリス」の続編が製作されるとしたら、首都高速道路は廃墟のイメージで使われるのではないでしょうか。

高度成長の時代を過ごし、日本は東京に象徴されるように「成熟」した時代に入っています。その成熟を維持していくためには、半世紀前に戦後の復興の証とした、また高度成長期に造られたインフラの保守点検、修理・修繕が必要です。

老子の名言に「足るを知るものは富む」があります。北杜市に造られようとしている中部横断自動車道の建設計画は四半世紀も前のものです。既に高速道路は全国にネット

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会　長田　佳久
https://sites.google.com/site/odandonewroot/oshirase
＜連絡先＞柴田　武　090-5807-1418　shibata@a2.mbn.or.jp　山梨県北杜市大泉町西井出 9130-3

ワークを形成しています。国土交通省はそれでもミッシングリンクはあると主張しています。しかし別の見方、「ネットワークはそこまで」と思えばミッシングリンクは存在しません。

「足るを知って」新しい高速道路は造らない。それに計上されたお金は、インフラをインフラとして使用できるように維持管理に回してはどうでしょうか。

成熟期に入った日本の道路行政を立ち止まって考えるのは「今、でしょう！」。その先に心の豊かさと幸せが待っていると確信しています。

大泉町　太田 秀雄

「美しいもの、美しいこと」

多分、私が手掛けている仕事は特殊だと思います。
ステンドグラス、と言うジャンルではあるんですが、殆どの日本人が想像しているものとは違っているでしょう。本来、stained glass ですから、絵付けをしない物はそう呼ばない筈ですが、どう言う訳か日本ではそうでは無いようです。

stain（さび）付けされたガラス、いわゆる絵付けされたガラスの事なんですね。日本ではあまりお目にかかれません。日本では、モザイクされたガラス作品が殆どです。

そんなわけで、時々（なるべく沢山）本物を観る為にヨーロッパへ 出かけます。とりわけ、イタリア・フランス・ドイツ・ベルギー・・・

数年前には、自分のステンドグラス制作の原点だとも思っていた、ドイツ・ウルムの大聖堂のステンドグラスにやっと出逢えました。初心に戻り、鳥肌が立った感動を今でもはっきり覚えています。

美術大学の師に言われた事で、記憶に残っている言葉があります。それは、「美術とは心を形にする事」つまり、心と、それを人に伝える為の技術の修練を積むように・・だったと思います。

「美しいものとは・・」「美しい事とは・・」

清里は、人が作為的にブームを作って有名に？なり、繁栄もした地域です。歴史が何も無い！とは申しませんが、根が浅い歴史の上に建った構造物はとても不安定です。一頃の大ブームが去り、どん底も去ったでしょうか！？落ち着きを取り戻した清里の「良さ」はこれからなんでしょう。清里に住み始めて３０年以上が経っているなか、観光業でない私は、その推移を冷静に見て来れたかも知れません。八ヶ岳南麓には素晴しい景観があります。何もしない、何も手を付けない、と言う事ではなく・・・ドイツ・バイエルン州にオーバアマガウと言う町があります。八ヶ岳南麓のスケールを大きくしたような地域にあります。その町は１０年に一度開催される「生誕劇」で有名ですが、何と言っても美しい１７世紀頃から始まった「民家を飾る壁絵」が素敵な町です。何百軒もの家々が、それぞれの住人の趣味と

センスが反映された「壁絵」で飾られています。その町は、「生誕劇」と「壁絵」を観る為に多くの人達が世界各国から来るそうです。私もその一人でしたが・・

で！、で！！皆どうやってその町へ来るんでしょう？私は電車で行きましたが・・・多くの人々は「車」です。街路樹が綺麗な一般道を使って来るし、高速道路はと言えば、少し掘り下げた道で、そして防音壁にもなる街路樹が美しい、まさに景観にマッチした高速道路でした。町の中央から少し離れた所に宿を取っていた私が、遠くに見た高速道路はとても美しく景色に溶け合っていました。中部横断自動車道をどんなデザインにしたら素敵なんだろう！！と考えていた矢先の旅行でしたので、感じる事が多かったです。環境に極力負荷をかけない町作り、道路作り。お手本になる町や道路はいくらでもあります。美しいものを美しいと感じる心、その訓練を重ね、生活習慣としましょう。

八田高聡／清里

なお一層の声が、計画を変える力に

第 3 回ワーキングループ検討会（6/27）から間もなく 3 か月、すぐにも小委員会が開かれるのではと思っていましたが、計画の進行にブレーキがかかっているようです。

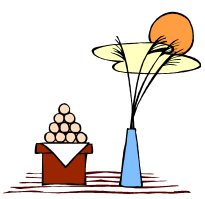
これは会の活動による成果の側面もありますが、多くのご支援いただいている皆さまの、声なき声も含めたさまざまな力の効果も大きいと考えています。

国交省のこれまでの進め方は、手続きに公正を欠き、合意形成のための形式をも踏んでいません。会で行った新旧国交大臣秘書や地元選出国会議員の皆さんへの説明で、このことを理解していただき国交省への働きかけなど多くの御協力をいただいています。

なにより、この地にふさわしい、地元に喜ばれる道路でなければなりません。時間がかかっても、国、県、市と市民が知恵を出し合いまとめてほしいと思います。皆さまの一層の御支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本風景街道で八ヶ岳南麓風景街道が表彰されました。

国交省が行っている日本風景街道の「23 年度美しい景観形成部門」として「八ヶ岳南麓風景街道」が 9 月 6 日表彰されました。中部横断自動車道新ルートはこの八ヶ岳南麓の一部にあり、高速道路建設により、美しい景観が分断されてしまう恐れがあります。なお、選定委員長は横浜国大の小濱哲教授(関東地方小委員会メンバー)が任命されており、関東地方小委員会石田東生委員長は昨年行われた日本風景街道サミットで講演しています。



「なぜ、長坂なのか」文書の開示請求をしました

中部横断道のジャンクションが長坂付近と決められていますが、その決定の経過はこれまで説明されていません。説明会など機会のあるたびに国交省に質問をしてきましたが、国交省の担当者は、「保存期間が過ぎたので廃棄した」と言うばかりなので、納得のいく返答はありませんでした。その為、このたび文書の開示請求を行いました。

その決定通知書には、「取得作成していないため、文書が存在しない」と書かれていました。長坂に決定した会議の議事録等は作成していないと回答してきたのです。国交省の説明は矛盾しています。これでは、ジャンクションがなぜ長坂に決められたのかの疑問が、ますます深まるだけです。

東京・霞が関議員会館にてロビー活動を行いました！

① 長田代表以下「沿線住民の会」会員が東京霞が関にある「国会議員会館」にて各議員事務所を訪問、中横断自動車道（長坂～八千穂）計画段階評価のこれまでの経過説明と住民の意見を反映した事業の実施をするよう、国側を指導して頂けるよう要請を行いました。(敬称略)

・9 月 10・11 日　国会議員会館　各事務所訪問先
太田昭宏(公明・国交大臣)・馬淵澄夫(民主・旧国交大臣) 後藤斎(民主)・小池晃(共産)・田村智子(共産)・中島克仁(みんな)・小沢鋭仁(維新)

・9 月 20 日国会議員会館　各事務所訪問先　堀内詔子(自民)・宮川典子(自民)

② 柴田副代表以下「沿線住民の会」会員が山梨県にある各議員の地元事務所を伺い要請を行いました。

・9 月 17 日　各事務所訪問先　中谷真一(自民)・輿石東(民主)

・9 月 18 日　各事務所訪問先　森屋宏(自民)

なお、小池晃・中島克仁・中谷真一議員には、直接会って話を聞いていただきました。お忙しい中、ありがとうございました。

山梨県、北杜市へ抗議行動！

8月２９日　北杜市へ抗議文を提出しました。市が「中部横断自動車道活用検討委員会」を開催したことに対し、ルート案がまだ決まっていない段階で B 案前提のこのような委員会を開催することは時期尚早であることなどを指摘し、住民の意見が十分に反映されるシステムをつくって協議の場を保証するよう要求しました。

9月５日　県へ抗議文の回答を受け取りに行きました。６月２４日に提出した抗議文では、県がワーキンググループの結論が出る前に B 案に誘導するような行動を行っていることなどを批判しました。これに対し、２ヶ月以上たって、ワーキンググループが終わってからやっと回答してきたものです。このような県の対応は、誠意があるといえません。

「高速道路はいらない―高尾と全国の住民運動から学ぶもの」

９月８日、高根農村環境改善センターにて、28 年間にわたって圏央道建設から高尾を守る闘いをやってこられた橋本良仁さんを迎えて講演会を開催しました。

高尾の場合は、①運動を広げていくには多くの人に関心を高めてもらうことが必要であり、高速道路反対だけではなく自然を守る闘いに転じた。②メディアの利用や活動資金確保も大事である。そのノウハウは・・・。③行政訴訟については負けたが裁判をやって初めて分かったこともあった事などが話されました。。

そして、「皆さんの運動はまだ始まったばかり、闘っているところはそれなりに成果がある。もう、日本に高速道路はいらない。国土面積からみても世界で突出している。本当に必要かどうか、立ち止まって考える時だ」など述べられました。28 年間闘ってこられたその顔に悲壮感は全くなく、明るい笑顔をたたえての話は一言ひとことに重みを感じました。

中部横断道と水

９月８日の高尾山と住民運動の講演会で、滝が枯れたスライドが紹介されました。豊かな水量の滝が、高尾山に掘られたトンネルの影響で枯れてしまった写真です。国交省は、この工事の前には「滝は枯れない」と説明していましたが、実際には枯れてしまったので、現在は年間１８００万円の電気代をかけて他からポンプで水を揚げているとのことでした。

中部横断道の双葉から静岡の南部ルートでも、国交省は同じように水が枯れる心配はないと言ってきましたが、実際には井戸が枯れるなどの影響が出ていることが報告されています。国交省の説明と実際に起きたことは食い違っていました。

八ヶ岳南麓は湧水の宝庫で、私たちはその恩恵を受けて生活しています。中部横断自動車道ができたら一体どうなるのか、心配は絶えません。

講演会のＤＶＤお譲りします。1000 円(実費+カンパ)送料別
講演を収録したＤＶＤが必要な方は、0551-47-6260 までご連絡下さい。

「岳人」10 月号に中部横断道の記事が掲載されました

「岳人」はビギナーからクライマーまで広く読まれている山岳専門誌です。この中部横断道が八ヶ岳南麓を横断することに関心を寄せられ、反対運動のあることを伝えています。富士山が世界遺産になりましたが、八ヶ岳の自然や景観もそれに劣らず誇れるものです。全国の岳人愛読者が関心を寄せていただくといいですね。

秋のイベント

中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルートを歩く(1)

津金の三代校舎から海岸寺まで

国道141号の東側の山麓に津金の里はあります。歴史のある静かで趣のある地域です。その津金の里に中部横断自動車道の新ルートが示されています。

稲刈りが済んだ静かな津金の里を歩きながら高速道路による環境破壊を考えてみませんか。そして、海岸寺住職の講話を楽しんでみませんか。

１０月５日（土）９時５０分（資料館前集合）

スケジュール

10:00　三代校舎（資料館にて説明を受ける）

10:30　海岸寺に向けて刈取りの済んだ棚田の中をウォーキング

12:00　海岸寺にて昼食（各自用意してください）

13:00　解散（三代校舎まで歩く）

お詫び：住職の講和は都合により、なくなりました。

＊参加希望者、お問い合わせは

☎　0551-45-7832（東けんじ）まで連絡ください。

メール　azuken@bj8.so-net.ne.jp

＊持ち物　雨具・お弁当・飲み物

＊雨天（小雨）の場合は次週　10月12日（土）に延期します。

*今後の予定

11月の予定　清里（東念場から大門ダムまで）

12月の予定　長坂・大泉・高根（長坂インターから堤山まで）

三代校舎

明治・大正・昭和の校舎が並んで残っている。甲斐源氏が八ヶ岳南麓を支配いていた頃の居城があった場所でもある。明治に建てられたハイカラな校舎は現在資料館になっている。

海岸寺

千三百年前に行基菩薩が庵をかまえたのが始まりとも言われている。江戸時代には観音信仰が盛んになり「百番のお観音さん」として近在の人々に親しまれてきた。